様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ６ 月　 １ 日現在

機関番号：１３３０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2012～2015
課題番号：２４５２０４２１

研究課題名（和文）ベトナム語の表層アクセントパターンを探る－となえうたの分析から－

研究課題名（英文）Surface Accent Pattern of Vietnamese --Approach from an Analysis of Chants--

研究代表者
斉木　麻利子（SAIKI, MARIKO）

金沢大学・国際機構・教授

研究者番号：００１９５９６８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,400,000円

研究成果の概要（和文）：伝統音楽（特にとなえうた、わらべうた）におけるアウフタクト（弱起のリズム＝Auftakt [独], Upbeat [英]）の生起は、表層レベルの強勢の有無に起因する。よって強勢システムに立つ英語の場合、このリズムが頻繁に観察される一方で、日本語や北京語の場合、稀にしか観察されない。日本語はピッチシステム、北京語は声調システムに立つ言語であり、表層における強勢が存在しないからである。ベトナム語の場合は変則的である。この言語は、北京語と同様に声調言語であるにも関わらず、となえうた・わらべうた中にアウフタクトが頻繁に生起する。この結果は、ベトナム語の表層に強勢が存在する可能性を示唆するものである。

研究成果の概要（英文）：We first hypothesize that occurrences of Auftakt (=Upbeat) in traditional music is correlated with the stress pattern in the surface phonology of languages. In English, for instance, distinctiveness of stresses is at work on the surface level, with a weak stress frequently occurring at the beginning of an utterance, and this in turn explains the predominance of Auftakt in music. However, in non-stress systems such as Japanese and Mandarin, Auftakt is rarely observed in folk melodies, because of the lack of stress phonology. We then note that Vietnamese folk melodies exhibit an anomalous pattern. That is, given the hypothesis above, since Vietnamese has a tone system just as Mandarin, Auftakt should be rarely observedin music. However, Vietnamese children's folk songs collected for our pourpose frequently contain Auftakt in their initial positions. This result lends support to the idea that there might be stress present within the surface organization of Vietnamese phonology.

研究分野：理論言語学

キーワード：ベトナム語　伝統音楽　アウフタクト　声調言語

１．研究開始当初の背景

言語と音楽の比較対照研究は，過去 30 年ほどの間に，文系，理系の枠を超え，学際的な研究分野として，多大な注目を集めてきている。現代言語学の枠組みの中では，特に F. Lerdahl & R. Jackendoff 著，*A Generative Theory of Tonal Music*, MIT Press (1983)以降，様々な観点からの研究が盛んに行われるようになってきた。本研究は，そのような研究の一つであり，アメリカ合衆国ラトガース大学准教授，Young-mee Yu Cho 氏との共同研究として継続して来たものである[注 1]。

われわれの共同研究では，研究対象を伝統音楽中最も言語に近いところに位置付けられる「となえうた(chant)」「わらべうた(children's play song)」に定め，類型上異なる様々な言語圏のとなえうたを観察してきた。

またその手法は，となえうた・わらべうたを構成する言語側の要素である「語彙（歌詞）」と，音楽側の要素である「メロディー」及び「リズム」との対応パターンを調査することにより，未だ解明されていない言語の個別的特徴及び普遍的特徴を浮き彫りにしようというものである。これは，音楽の領域に一歩踏み込んでから言語を見ると，その新たな姿が見えてくるからである。本研究課題においてもこの方法を採り，作業を進めて行った。

われわれが過去の研究の過程で得た一般化や事実や知見は数多いが，中でも本研究課題の基盤になるものとして重要なのは，となえうたのリズム形式に関する一般化であり，「となえうた・わらべうたに‘アウフタクトのリズム’が観察されるか否かは，歌詞を構成する語彙の表層における強勢(stress)の存在と，その分布に依存する」ということだ［注 2]。

となえうた・わらべうたでは，弁別性を有するか否かに関わらず，歌詞の表層に現れる強強勢(strong stress)が音楽の強拍(strong beat)にリンクされ，さらには，弱強勢(weak stress)が音楽の弱拍(weak beat)にリンクされ，リズムが決定される傾向にある。

例えば，英語では，発話冒頭の音節が，文強勢または語強勢として，弱強勢を担い得る。英語のとなえうた・わらべうたの歌詞の，冒頭語彙の第一音節に弱強勢が現れた場合，これが音楽側の弱拍にリンクされ，アウフタクトのリズムが容易に形成される。これが，英語圏のとなえうた・わらべうたにはアウフタクトが頻繁に観察される理由だと考えられる。

また，チェコ語は英語同様に強勢システム(stress system)を基盤とする言語であるが，表層では，常に語彙の第一音節が強強勢を担う。よって，チェコ語のとなえうた・わらべうたでは，歌詞冒頭の音節が担う強強勢が音楽側の強拍にリンクされる。実際，この言語のとなえうた・わらべうたには，アウフタクトはほとんど観察されない。

さらには，ピッチシステム(pitch system)に立つ日本語と韓国語圏のとなえうた・わらべうた及び声調システム(tone system)に立つ北京語圏のとなえうた・わらべうたにおいても，アウフタクトの生起は稀にしか観察されない。これは，この３言語が，そもそも表層の強勢を待たないからである[注 3]。

しかしながら，われわれは，興味深い文献資料を入手した。ベトナム各地の伝統的なわらべうたを採譜し編集した，幼児のための歌謡集である。そして，そこに収められた 50 曲のうち，32 曲にものぼる数でアウフタクトが観察されたのである［注 4]。

この事実は見逃せない。ベトナム語は声調言語(tone language)なので，上述のアウフタクト生起に係る一般化が真であるのならば，伝統音楽としてのわらべうた中に，アウフタクトは観察され難いと予測されるからだ。

[注 1] Cho, Y-M. & M. Saiki (2008) "Preservation of Lexical Prominence in Vocative Chant," Japanese and Korean Linguistics 13, Mutsuko Endo Hudson et al. eds., Stanford: CSLI Publications などを参照。.

[注 2]アウフタクト(Auftakt [ドイツ語]＝Upbeat [英語])というのは，曲やフレーズのスタート部分に表れる弱拍(weak beat)のことで，イギリス民謡＜Greensleeves＞（作者不明）のうたい出しである"Alas, my love..."の A の部分や，　スコットランド民謡＜Auld Lang Syne＞（作曲者不明）のうたい出しである"Should auld acquaintance…"の Should の部分がその一例である。英語やドイツ語などの強勢アクセント言語(stress accent language)圏では，となえうた・わらべうたにとどまらず，伝統音楽一般に，アウフタクトが頻繁に観察される。

[注 3] 以上の内容は Cho, Y-M. & M. Saiki (2010.9.30) "Contrastive Realization of Linguistic Prominence in Music," the 6th International Contrastive Linguistics Conference (ICLC 6), Freie Universität, Berlin (Germany)参照。

[注 4] *Nu Na Nu Dống: Tuyển tập càc bài hát đồng dao viết cho thiếu nhi*, Nhà Xuất Bản Àm Nhạc: Hà Nội, 2010.

２．研究の目的

１.に記したように，本研究開始前に，ベト

ナム語圏のとなえうた・わらべうたには，われわれの予測に反し，アウフタクトがかなりの数で観察されることが明らかになっていた。

そうなると，わいてくる疑問は一つ，すなわち，「ベトナム語には，表層の強勢が存在するのではないか」ということである。実際，最近の研究の中には，ベトナム語の表層強勢を示唆するものもある[注 5]。

はたしてベトナム語の表層レベルに，強勢は存在するのか，しないのか。ぜひともわれわれ独自の手法を用いることにより，答えを求めたい。これが，本研究の目的であった。

[注 5] ・Nguyễn, A-T. T. and John C. L. Ingram (2007) "Acoustic and perceptual cues for compound-phrasal contrasts in Vietnamese,' in *Journal of Acoustics Society of America*, 122 (3), 1746-1757.

・Nguyễn, A-T. T. (2014) "Acoustic correlates of rhythmic structure of Vietnamese narrative speech," in *Mon-Khmer Studies*, 43.2, 1-7.

３．研究の方法

本研究は、申請時には，研究期間を平成 24 年度から平成 26 年度までの 3 年度間としていたが，最終年度における延長申請が認められ、1 年度間研究期間が延長された。

まず，民俗音楽研究者，小泉文夫の指摘によると，伝統音楽は，生みの親である人間の言語に密着しており，「伝統音楽と言語は，相互に影響し合い，それぞれの形式が決定される」[注 6]。

この指摘こそ，われわれが長年の共同研究として，「言語と音楽のインターフェイス」の立場に立つ根拠であり，本研究でもこれを踏まえ，研究作業を行った。

研究期間を通じ，研究代表者，研究協力者（海外共同研究者）ともに，本務校においてベトナム語の韻律的特徴及びベトナム語圏のとなえうた・わらべうたのメロディーとリズムの特徴を調査した。

平成 24 年度 2 月には，ベトナム社会主義共和国ハノイ市にて，ハノイ国家大学外国語大学の学生の協力により，となえうたを含む，ベトナム語圏の伝統音楽関連の膨大な資料を収集した。資料中には，幼児のためのとなえうた集と小学校と中学校の音楽科の教科書数セットが含まれるが，これは，本研究のための大きな成果であった。日本においては同様の文献資料を入手することが極めて困難なこと，さらには，子どもの遊びの中で時を通じて自然に定着していった，作者不詳のとなえうたの資料が入手できたからである。

平成 25 年からの 2 年度間には，まず，平成 24 年度からの継続作業として，分析対象とする文献を選定した（*Bai hat danh cho tre mam non* シリーズ［3 冊］，*Bai hat danh cho tre mam non* 2 シリーズ［5 冊］，Tuyen chon bai hat danh cho tre mam non シリーズ［2 冊］）。次に，選定した文献に掲載されているとなえうた・わらべうたの冒頭にアウフタクトが生起するか分析した。

[注 6] 小泉文夫 『音楽の根源にあるもの』平凡社，1994.

４．研究成果

本研究の調査によると，本研究開始以前の観察結果と同様に，分析した資料中，かなりの数のベトナム語圏のとなえうた・わらべうたの冒頭部分にアウフタクトのリズムが観察された。

また，作られた年代が判明した（または判明しなかった）うたの数と，アウフタクトの生起頻度との相関関係も確認できなかった。

従来の言語類型によると，ベトナム語は声調言語である。さらには，１．で述べたように，アウフタクトの生起は，強勢システムに立つ言語圏の音楽であることが必要条件である。したがって，以上の結果と前提に基づくと，ベトナム語の表層に，強勢が存在する可能性は高い。

この結果は，将来的には，２.で述べた，本研究とは異なった手法でベトナム語の表層強勢について調査し，その有無を示唆する研究結果（[注 5]の研究等）と照合し，新たな結論を導き出したい。しかしながら，現状では，時期尚早であると考える。そうするためには，うたの冒頭部分に関する詳細な環境分析（音韻論的又は統語的にどのようなカテゴリーを成すのか、内容的に優位な要素なのか、それとも機能的に優位な要素なのか、等）を厳密に行う必要があるからだ。

また，本研究で扱ったとなえうた・わらべうたの起源をさかのぼる際の情報を入手し，その真偽を極めるのが不可能な場合もあった。これを克服するのには，ベトナムの歴史一般，教育史の観点からの資料の考察と情報収集も必要だと考える。

以上の研究成果と展望は，平成 28 年度 4 月 25 日，インドネシア大学（インドネシア，デポック市）で開催された 1st Asian Researcher Symposium 2016: Asian Role in Sustainable World Development において，発表した。

５．主な発表論文等

（研究代表者，研究分担者及び連携研究者には下線）

〔学会発表〕（計　1　件）

① Mariko Saiki (2016.4.25) "Realization of Contrastive Stress in the Folk Melodies of the World," Plenary Session, the 1st Asian Researcher Symposium 2016: Asian Role in Sustainable World Development (ARS 2016), Balai Sidang, Universitas Indonesia, Depok (Indonesia).

６．研究組織

(1) 研究代表者
斉木　麻利子（SAIKI　MARIKO）
金沢大学・国際機構・教授
研究者番号：00195968

(2) 研究協力者（海外共同研究者）
Young-mee Yu Cho
ラトガース大学・東洋言語学科・准教授
（アメリカ合衆国ニュージャージー州）